DX今物語⑳

海外でも大活躍！純国産のRPAツール

NTTアドバンステクノロジ
グローバルアライアンス事業部
グローバルソリューションビジネスユニット
担当課長　藤﨑　美奈子

10年以上にわたり先端技術や商材を扱う部門で営業を担当。お客様とのコミュニケーションを大切にしてお客様目線で物事を捉え課題解決に取り組む。2017年度より国内シェア首位のRPAツール「WinActor」の海外営業を担当し現在に至る。

最近テレビでもDX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉をよく耳にするようになりました。DXを語る上で頻繁に出てくるワードの一つにRPA（ロボティックプロセスオートメーション）があります。

RPAは、PCによる業務をロボットで自動化するテクノロジーで、複数のシステムなどをRPAでつなぐことにより業務効率化や生産性向上が実現できます。NTT－ATでは、NTTの研究所で生まれた純国産RPAツールを商用化し、2014年に製品名「WinActor」として日本国内での販売を開始しました。国内ではシェアNo.1を誇っており、金融業から物流・小売業と幅広い分野の企業に導入いただいています。

国内では有名ですが、実は海外でもWinActorが活躍しているのをご存じの方は少ないのではないでしょうか。

企業におけるPC利用は世界共通、日本と同様の業務が存在し共通する課題があると考え、「日本でこれだけ注目されているWinActorなら海外でもいけるはず！」との思いで17年に英語版、翌年2018年には中国語版の販売を開始しました。さらに20年には、日本語／英語の言語切り替え機能を搭載したWinActorをリリースしました。当初、海外では知名度はゼロに等しく、またRPAという言葉自体を聞くのが初めてといったお客様が多かったため、お客様の開拓に苦労しました。日本国内のように気軽にお客様のところを訪問してデモを行うことができないため、訪問営業の他にウェブ会議や電話会議を駆使して対応しました。当時はウエビナーといった言葉はほとんど知られていない時代、ウェブ会議が頻繁に行われていなかったこともあり、WinActorの良さを十分に伝えきれない歯がゆさもありました。

手探りの状態ではありましたが地道に営業活動を続け、さらに各国の販売代理店による強力な顧客サポートが実を結び、今ではAPAC、中国、南米、欧州に拠点を置く企業の現場でも活躍しています。また、製造業、IT・通信事業、商社、金融業など200社を超えるお客様にお使いいただいています。最近では海外でもAI－OCRとWinActorを連携させたソリューション商材が注目されています。

海外ではまだ知名度が高いとは言えませんが、世界各地に確実にファンが増えてきているのは、メーカーとして嬉しい限りです。今は「日本のWinActor」のイメージが強いですが、いつか「世界のWinActor」へと飛躍させたいと思います。